

# 特集

## ISO を活用した 四方よし経営 (2)

～時代の変化に対応した  
マネジメントシステム～

角子 裕司

前号において、四方よし(買い手よし、世間よし、働き手よし、売り手よし)経営とISOマネジメントシステム(品質、環境、労働安全衛生)の関係について解説いたしました。今回はその続編となり、四方よし経営をISOで実践するポイントと利点について解説いたします。

### 1

#### ISOで実践する3つのポイント

##### ①ISO 9001・14001・45001と財務管理の統合化

四方よし経営を実践するツールとして用いるISO (9001、14001、45001) マネジメントシステムは、附属書

前号に続き、ISOを活用した四方よし経営について取り上げます。今号ではさらに、四方よし経営をISOで実践するポイントと利点について、より具体的に規格条項や課題例を交えながら解説しております。前号の内容と合わせて、導入検討・活性化のご参考にしていただけたら幸いです。(編集部)

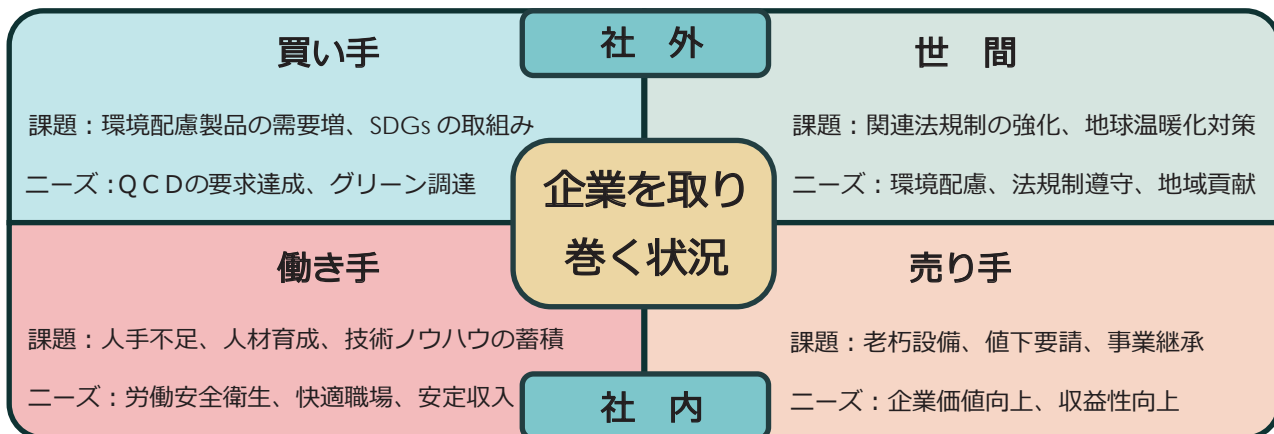
SLに基づき、箇条タイトル、箇条順序、共通テキスト、共通用語・定義に共通性のある仕組みです。そのため、システム統合が容易であり、

ベースとなるISO 9001に14001、45001の固有要求事項と自社の財務管理システムを統合させることで、四方よし経営のOS(オペレーティングシステム)となる統合ISOが構築できます。

その際、社内教育に役立てる目的で、5W1Hを明確にしたマニュアルの作成をお勧めいたします。



ISO 9001 (買い手よし) ベースとなる要求事項	ISO 14001 (世間よし) 追加する固有要求事項	ISO 45001 (働き手よし) 追加する固有要求事項
4. 組織の状況	—	—
5. リーダーシップ	—	5.4 働く人の協議及び参加
6. 計画	6.1.2 環境側面 6.1.3 順守義務	6.1.2 危険源の特定並びにリスク及び機会の評価 6.1.3 法的要求事項及びその他の要求事項の決定
7. 支援	—	—
8. 運用	8.1 運用の計画及び管理 a) ~ d) ライフサイクルの視点 8.2 緊急事態への準備及び対応	8.1.2 危険源の除去及び労働安全衛生リスクの低減 8.1.4 調達(請負者、外部委託) 8.2 緊急事態への準備及び対応
9. パフォーマンス評価	—	—
10. 改善	—	10.2 インシデント、不適合及び是正処置



## ②規格要求事項4.1、4.2、6.1に四方の視点を

時代の変化に対応したマネジメントシステムとする為、「4.1:外部、内部の課題の明確化」と「4.2:利害関係者とそのニーズ、期待の明確化」に、四方の視点(品質、環境、労働安全衛生、財務)を漏れなく洗い出すことが重要です。そして、その内容を「6.1:リスク及び機会への取組み」にきちんと反映させることで、四方よしを実現するための、方針⇒目標⇒計画⇒手順を導き出すことに繋がります。

## ③ISO認証取得は目的ではなく手段

ISOが形骸化している企業の多くは、認証取得を最終目的として活動をスタートし、認証を取得した後は、毎年、認証を維持し続けることが目的に置き換わっている傾向にあります。ISOを活用し四方よし経営に取り組む場合、理念に基づくビジョンの実現が最終目的となり、認証取得はその達成手段であり、1つの到達地点といえます。ISO認証取得を、看板広告にするのではなく、専門家である第三者からの問題点や指摘を受け入れ、「買い手、世間、働き手」と「売り手」との関係性向上の良い機会と捉えることができれば、組織にとって大きなメリットになり得ます。

## 2 四方よし経営をISOで取り組む利点

ISO活動に四方の視点を取り入れる事により、次のような利点が生まれます。

①一元化された1つの仕組みで管理するので、部分最

適から全体最適にシフトされる。②全社員に経営の意識が共有される。③四方の視点から法的要求事項を特定するので法令順守が強化される。④人材育成やコミュニケーションの質が向上する。⑤ISO活動と事業活動がリンクされ、乖離がなくなる。

## 3 四方よし経営で持続可能な企業作り

近江商人のモットーである「三方よし」に、「働き手よし」という新しい軸を加えた「四方よし経営」は、働き方の多様化が進む現代の企業経営に不可欠な考え方です。「四方を同時に意識することは難しい」と言われる経営者もおられますが、実際は全く逆であり、四方よしでない事業を永続的に発展させる事の方が難しいことを、私達は過去の歴史から学ぶことが出来ます。是非とも、ISOを活用した四方よし経営の実践を通じて、従業員、顧客、地域社会から必要とされる持続可能な企業を目指しましょう。

### 筆者紹介

角子 裕司 (かくし ゆうじ)

鉄鋼関連機関にて環境分野に関する調査・分析・品質管理業務等に従事。独立後、各種マネジメントシステムの構築および運用支援サービスを提供、実績多数。現在、中小規模製造業の経営体質強化支援を中心に活動。兵庫県在住。

